

< 主旨解説 >

全体テーマ & 5つの事例の主旨

東京理科大学
(株)コーセー

野澤 昌弘
池山 豊

事例フレーム

- 1 . **テーマの選定**はどのように決めたのか。
- 2 . **現状の把握と目的の設定**はどのように決定したのか。
- 3 . **活動計画の作成**はどのように決定したのか。
- 4 . **要因の解析**はどのように行ったのか。
- 5 . **対策の検討と実施**はどのように行ったのか。
- 6 . **効果の確認**はどうだったのか。
- 7 . **標準化と管理の定着**はどのように今後の進めるか。

プレス製品A 歩留まり改善 (ダコン不良撲滅)

1. テーマの選定

工場の収支改善の一環として、慢性不良の発生率
低減が必要

2. 現状の把握と目的の設定

過去3ヶ月の歩留まり(不良率)を行い、“ケタ違い
(1/10)を目標とした

3. 活動計画の作成

生産本部内SQC推進事務局と工場が相談し、改善
シナリオに沿った計画活動を決定

4. 要因の解析

改善シナリオに沿った要因調査によって要因を整理し、考えられる要因を絞り込んだ後、実験によって影響度・最適条件を確認

日本発条(株) 南 賢治 氏

プレス製品A 歩留まり改善 (ダコン不良撲滅)

5. 対策の検討と実施

改善シナリオに沿って得られた要因に対し、プロジェクトチームにて対策を検討し量産に織り込んでいる

6. 効果の確認

製造課にて推移を確認、良好

7. 標準化と管理の定着

歩留まり推移確認の継続および次機種への金型新設計へ展開予定

アイシン精機(株) 花村 和男 氏

全社的SQC活動とStatWorksを活用した 課題解決の促進 - ベッドの新商品開発事例 -

1. テーマの選定

売上の大黒柱である「Mシリーズ」が大幅に低下

2. 現状の把握と目的の設定

アンケート結果よりお客様の評価体系を見直し、
刷新するような新商品企画

3. 活動計画の作成

お客様とデザイナーの評価の違い～デザイナー
の評価体系確立～企画立案

4. 要因の解析

お客様アンケート結果解析～もれ分析(調査～
数量化 類～…)

アイシン精機(株) 花村 和男 氏

全社的SQC活動とStatWorksを活用した 課題解決の促進 - ベッドの新商品開発事例 -

5. 対策の検討と実施

デザインコンセプトに沿って、評価グリッド
法を活用し新商品を開発

6. 効果の確認

新商品のインタビュー調査

7. 標準化と管理の定着

SQC専任スタッフを増員し、QC教育・SQC
活用推進に務めている

(株)トンボ鉛筆 笠原 耕三 氏 ブラインドノック多色ボールペン “タッチ”の開発

1. テーマの選定
2. 現状の把握と目的の設定
3. 活動計画の作成
企画背景の説明
4. 要因の解析
官能検査の設計と実査・分析提言
5. 対策の検討と実施
製品化と市場での反応
6. 効果の確認
確認モニターテスト
7. 標準化と管理の定着
次期商品への採用と手法の標準化

富士ゼロックス(株) 島川 邦幸 氏 顧客満足獲得のための品質マネジメント

1. テーマの選定

品質戦略から、顧客満足の高い商品を提供するしくみのひとつとして取り上げた

2. 現状の把握と目的の設定

種々のCS調査結果分析およびその反映方法を調査し現状把握

3. 活動計画の作成

年度計画の中におりこみ、カンパニーの品質会議で決定

4. 要因の解析

各機種種のCS調査結果分析と部門ヒアリング

富士ゼロックス(株) 島川 邦幸 氏 顧客満足獲得のための品質マネジメント

5. 対策の検討と実施

品質保証部内での素案検討と品質会議への提案

6. 効果の確認

各機種の初期流動レビューで効果確認

7. 標準化と管理の定着

フェーズ移行管理規制でレビュー方法を標準化(CSマネジメントガイドで詳細標準化予定)

農協共済中伊豆リハビリテーションセンター 堀本ゆかり 氏 患者に選ばれるリハビリセンターづくり

患者満足度調査 -

1. テーマの選定

より利用者のニーズに応える病棟づくりの
手がかりのため

2. 現状の把握と目的の設定

今回はマイナスイメージの情報を収集

3. 活動計画の作成

職員の業務が安定する7月より半年間、所
属病棟の退院数を勘案し50例を調査

4. 要因の解析

単一回答より度数を算出、自由回答は形態
素に分解しカテゴリーに集約しPCAで処理

農協共済中伊豆リハビリテーションセンター 堀本ゆかり 氏 患者に選ばれるリハビリセンターづくり

- 患者満足度調査 -

5. 対策の検討と実施

結果を当センターの当該委員会、病棟関係
各科に開示し対策を検討

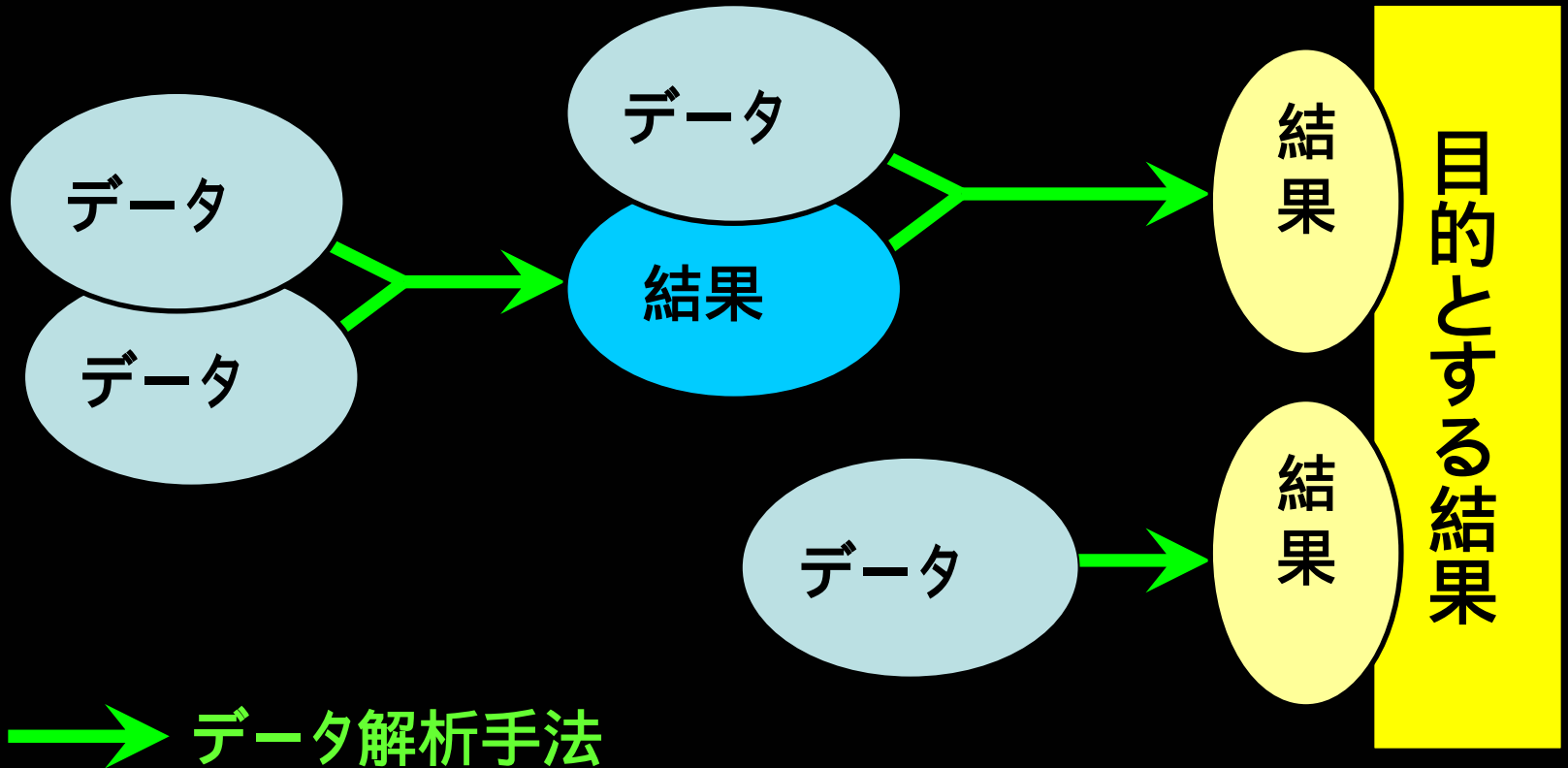
6. 効果の確認

同様のアンケート調査にて再調査の予定

7. 標準化と管理の定着

病棟内での情報交換を密にし、スタッフ間では先輩職員がスーパーバイズする

目的とデータとデータ解析手法



掲載されている著作物の著作権については、制作した当事者に帰属します。

著作者の許可なく営利・非営利・イントラネットを問わず、本著作物の複製・転用・販売等を禁止します。

所属および役職等は、公開当時のものです。

■公開資料ページ

弊社ウェブページで各種資料をご覧ください <http://www.i-juse.co.jp/statistics/jirei/>

■お問い合わせ先

(株)日科技研 数理事業部 パッケージサポート係 <http://www.i-juse.co.jp/statistics/support/contact.html>